

# 機器・分析技術研究会参加報告

共通機器部門 共通利用機器管理班 山口信雄

## 1. はじめに（目的等）

機器・分析技術研究会は文部科学省所轄の国立大学法人、独立行政法人国立高等専門学校機構、および大学共同利用機関法人に所属する技術系職員によって主催・運営されている。機器分析・化学分析に関わる全国の技術系職員が、技術研究発表や活発な討論を通じて自己研鑽と技術の向上、技術職員相互の交流を図ることを目的としている。

## 2. 期間・場所

期間：令和4年9月1～2日

場所：大阪大学豊中キャンパス 基礎工学国際棟シグマホール および  
オンライン(ZOOM)のハイブリッド開催

## 3. 参加者等

現地参加者（主催側含む）約80名程度。オンラインは不明。

## 4. 研修内容

機器分析及び周辺領域に係る技術や取り組みなどが発表された。発表形式としてはVR（仮想空間 oVice）を利用したポスター発表と現地での口頭発表が行われた。

## 5. まとめと感想

研究会そのものについては、質量分析やセルソーターに関する内容は少なかったものの、関連するIT技術や安全衛生などの分野で非常に有意義な知見が得られた。特に岩手大学技術部が開発した装置異常を遠隔で知らせるWANWANというシステムは非常に汎用性が高いと感じた。装置異常を知らせる配線とWANWANデバイスを接続し、さらに一般的なデバイスであるアマゾンのアレクサと接続することで離れた場所への音声警告、さらにスマートフォンにも通知する。WANWANデバイス自体は安価に提供予定ということで、一部の分析装置に取り付けることを想定しても良いと思われた。

また、本学で各種研究会を主宰することを念頭に、開催スタッフなどの配置や動き等を現地で確認した。検討すべき事項が多々見られたため、詳細は研究会準備委員会へ別途報告する。